

# 抗がん剤投与のリスクマネジメントにおける薬剤師への期待 —がん化学療法看護認定看護師の立場から—

幸 阪 貴 子<sup>†</sup>

第63回国立病院総合医学会  
(平成21年10月23日 於仙台)

IRYO Vol. 66 No. 4 (152-155) 2012

## 要 旨

がん化学療法は、分子標的治療の発展や作用機序の違う多剤併用療法など複雑化し、それを取り扱う看護師、薬剤師ともに緊張感を持って治療に関わっている。国立病院機構東京医療センターでは平成19年度より、がん化学療法の安全性、有効性、経済性を確保することによりがん薬物療法の標準化と院内業務の効率化を図ることを目的として、レジメン管理委員会を発足した。レジメン管理委員会の業務の一環として、簡易レジメン集の作成と文献サーバーへのアップロードを薬剤師中心に行った。作成にあたり主なユーザーである医師・看護師・薬剤師を対象にアンケート調査を実施した。その結果、がん化学療法の標準化と安全確保に向けてレジメン管理に推進していること、ビジュアル化にレジメン集が役に立っていることがわかった。近年、外来で実施できるレジメンが増えたことにより、当院では化学療法を受ける患者が全体の40%近くに上っている。外来化学療法は、患者・家族へのセルフケア支援が治療継続の鍵となることから、症状出現時の対応などきめ細かな説明が必要となる。とくに初回化学療法患者は、看護師だけでなく薬剤師による説明は、安全に化学療法を実施する上で役立っている。がん化学療法看護認定看護師として、新規抗がん剤導入時に看護師対象とした勉強会を実施してきたが、今後は専門的な教育を受けている薬剤師にも教育的な役割を担ってもらい、予想される副作用や副作用対策、適切な投与量・投与時間・投与経路・注意事項などを網羅した勉強会を行うことで、血管外漏出やアナフィラキシーの予防や早期発見などリスク回避につなげていきたい。

キーワード がん化学療法看護認定看護師， チーム医療， リスクマネジメント

## はじめに

東京医療センターは平成19年度から、がんの化学療法の安全性、有効性、経済性を確保することによりがん薬物療法の標準化と院内業務の効率化を図ることを目的として、レジメン管理委員会を発足した。

委員会の業務の一環としてレジメン集の作成と文献サーバーへのアップロードを薬剤師中心に行った。レジメン集作成にあたり、医師・看護師・薬剤師を対象にアンケート調査を実施した。調査の結果から、チーム医療のあり方を検討する。

国立病院機構東京医療センター 看護部 †看護師  
(平成22年6月4日受付，平成24年3月9日受理)

Expectations for the Pharmacist in Risk Management of Anticancer Agent Dosage : From the Perspective of Certified Cancer Chemotherapy Nurse

Takako Kohsaka, NHO Tokyo Medical center

Key Words : cancer chemotherapy nursing certified nurse, medical team, risk management

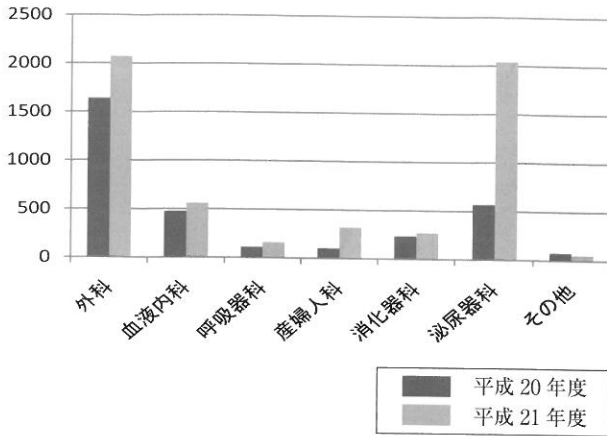


図1 診療科別外来化学療法件数

### レジメン集作成の経緯

平成20年度に実施された外来化学療法は3,197件で、さらに21年度は5,469件と急激に増加している。これは、前立腺がんをはじめとしたLH-RHアナログ剤であるユープロレリン（リュープリン®）の皮下注射を実施したことと、外科、とくに外来で行う乳癌外科の治療が増加したためである（図1）。また多剤併用療法など複雑化したレジメンが増えていく。そこで、近年の新規抗がん剤など複雑多様化する抗がん剤の安全管理の一環として、平成20年にレジメン集を作成した（図2）。

### レジメン集についてのアンケート調査

レジメン集の作成にあたり、意見要望を集積し今後の編集作業の参考とすることを目的に平成20年度にアンケート調査を実施した。対象者はがん化学療法に携わる医師20名、看護師89名、薬剤師18名であった。

### 結 果

レジメン集が治療の標準化に役立つかについて、医師85%、看護師84%、薬剤師83%が役立つと思っていた（図3）。レジメン集はリスク回避に役立つかについて、医師・看護師・薬剤師とも80%が役立つと答えていた（図4）。レジメンが複雑になって不安を感じるかについて、医師95%、看護師94%、薬剤師89%が不安に感じていた（図5）。以上の結果から、レジメン集はがん化学療法の標準化に寄与していた。レジメン集はリスク回避につながるが、レジメンが複雑になり不安につながることも明らかになった。

### 通院治療センターにおける薬剤師の役割と期待

当院では、通院治療センターで初回化学療法を実施する患者に対し、薬剤師が薬剤の情報提供をしている。とくに新規抗がん剤治療に関しては、EBM（科学的根拠に基づいた医療）に基づいた最新の情報が細かく説明され、副作用に関してもパンフレットなどを使いわかりやすく説明することで、患者の安心につながっている。また、副作用による治療継続が困難な患者に対し、薬剤師のアドバイスにより再度治療が開始になった事例もあった。これは、薬剤師と看護師が情報交換を密に行い医師へ情報提供を適切にできたことが要因であった。このように薬

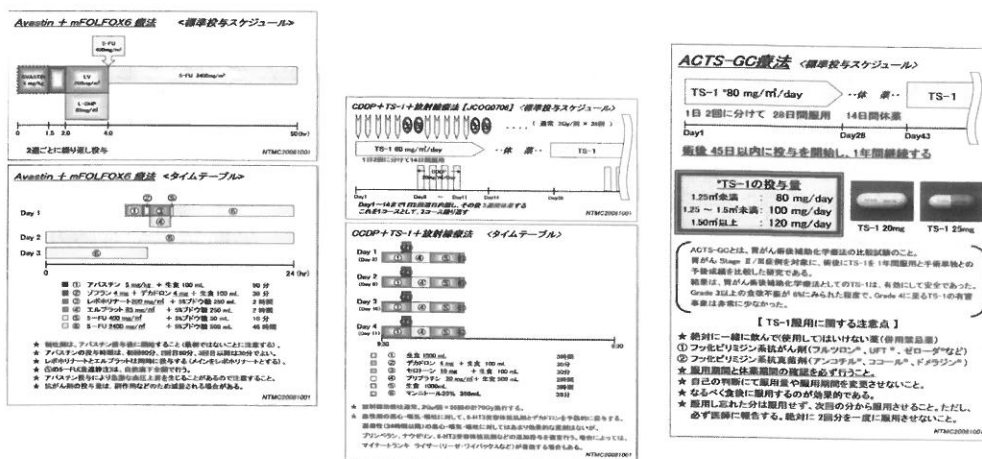


図2 抗がん剤レジメン集（一部抜粋） レジメン管理委員会作成

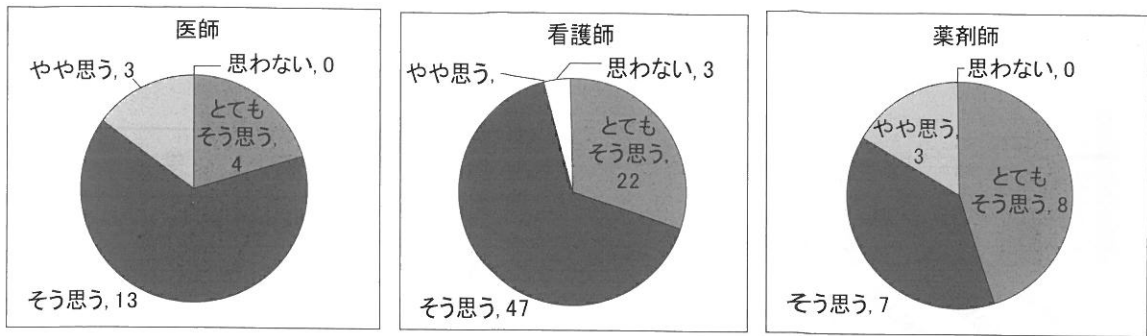


図3 レジメン集が治療の標準化に役立ちますか

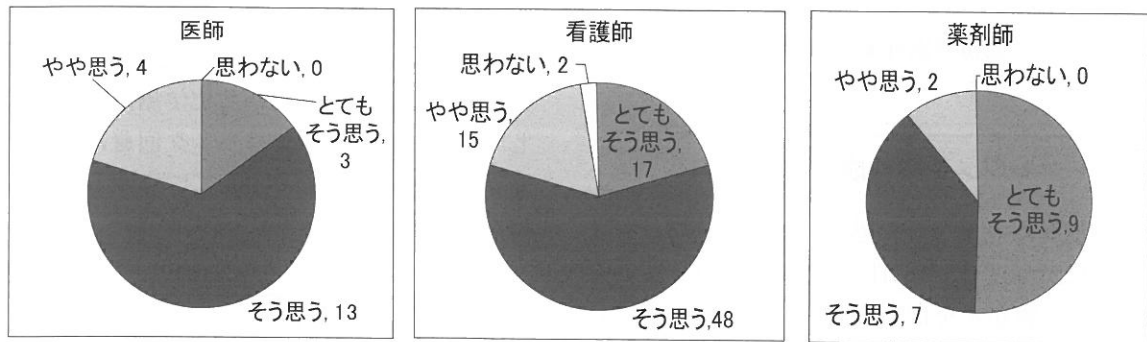


図4 レジメン集はリスク回避に役立ちますか

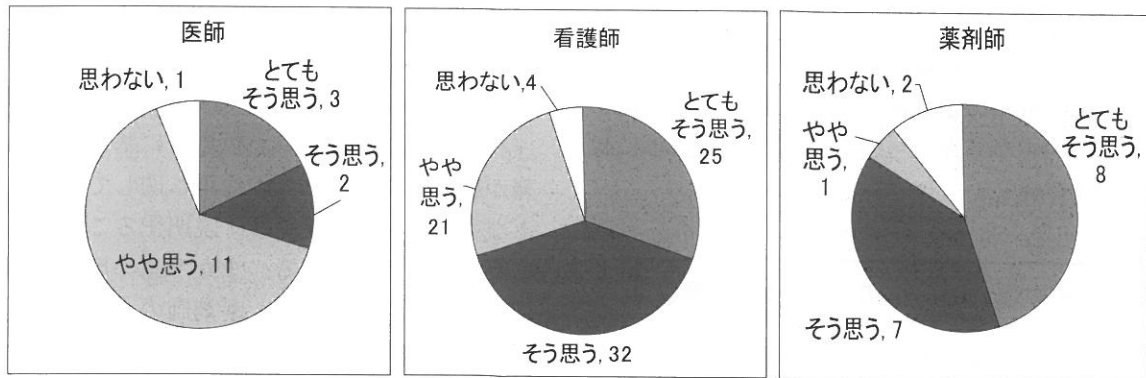


図5 レジメン集が複雑になって不安を感じるか

剤師は看護師と協働し治療に関する評価を正しく行い、副作用への患者指導を実施することで、治療遂行につながっている<sup>1)</sup>。抗がん剤のミキシングはすべて薬剤師業務に移行されている。今後は、医師や看護師に向けた、抗がん剤の安全な取り扱いに関する教育の企画や、分子標的治療など高額な医療費などを含めた治療説明も期待する<sup>2)</sup>。

### 通院治療センターにおける看護師の役割

通院治療センターの看護師は予約画面から翌日の患者情報を把握し、予約時間の確認やレジメンごとのベッド調整を行っている。治療前のレジメンチェ

ックは体表面積の計算違いやレジメン入力間違いの発見など医療事故を未然に防ぐ効果につながっている。また大腸がんを中心としたIVH（中心静脈栄養）リザーバーポート管理では、自宅で抜針の処理方法に困らないよう丁寧に説明し、抜針のトレーニングなどの患者教育を実施している。副作用のマネジメントとして、早期発見や対応方法など患者や家族を交えてオリエンテーションをしている。さらに、がん患者の個別的な問題についての支援として、皮膚・排泄ケアや疼痛看護の認定看護師への相談など調整も行っている。

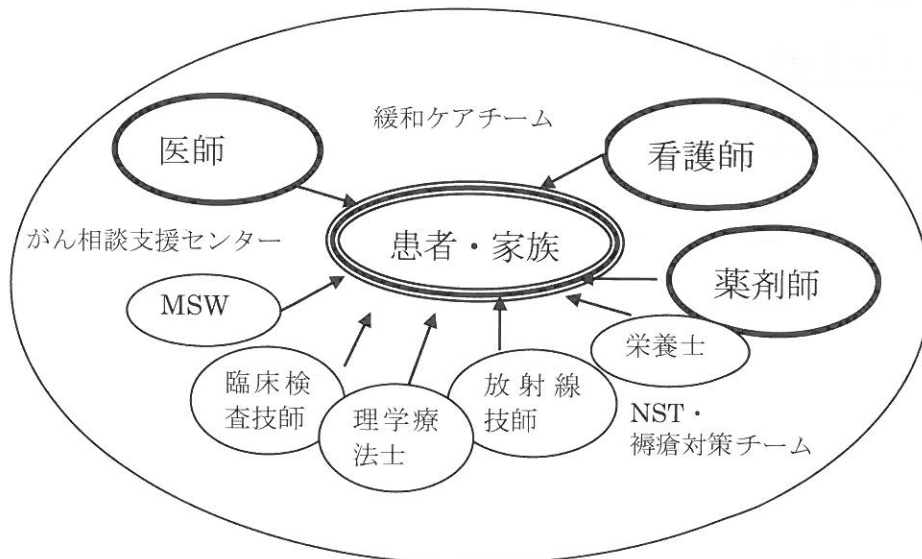


図6 がん化学療法におけるチーム医療

### がん化学療法におけるチーム医療

チーム医療とは、それぞれの職種が持つ専門的な意見をもとに患者とともに議論し、そこで得られたチームのコンセンサスに基づき、協働しながら行う医療である<sup>3)4)</sup>。それゆえ、各職種の行動はチームとして責任を負う必要がある。さらに、チーム医療では、状況に応じて、それぞれの職種がリーダーシップを発揮し、相互尊重することが求められる (<http://www.teamoncology.com> 参照)。

がん化学療法におけるチーム医療の中で、薬剤師は確実な化学療法を安全・安楽に患者に遂行するために、看護師と協働しながら、リーダーシップを発揮していくことを期待する。

〈本論文の要旨は第63回国立病院総合医学会 シンポジウム「スキルミックスにおける薬剤師の役割」において「抗がん剤投与のリスクマネジメントにお

ける薬剤師への期待—がん化学療法看護認定看護師の立場から」として発表した内容に加筆したものである。〉

### 〔文献〕

- 1) 厚生労働省医政局長通知「医師及び医療関係職と事務職員等との間での役割分担の推進について」(平成19年12月28日医政発第1228001号)
- 2) 黒沼美恵子. 職種間の役割分担見直し—京都大学医学部附属病院における実際と課題. 看護展望 2009; 34: 12-5.
- 3) 小澤桂子. 患者・家族へのサポートと外来治療の評価. がん看護 2003; 8: 384-90.
- 4) 吉田ミナ. 外来化学療法におけるチーム医療. 日がん看会誌 2006; 20(2): 35-6.